

平成 30 年 2 月 26 日

平成 29 年度関西保育福祉専門学校
第 2 回教育課程編成委員会報告

本校の教育課程編成委員会設置要綱に基づき設置した教育課程編成委員会において、「第 2 回教育課程編成委員会」を開催いたしましたので、その概要を報告します。

1 開催期日 平成 30 年 2 月 26 日（月）15：00～17：00

2 開催場所 関西保育福祉専門学校 校長室

3 出席者（敬称略）

| 名前 | 所 属 | 備考 |
|---------|---------------------------------------|----|
| 船寄俊雄 委員 | 神戸大学人間発達環境学研究科 教授 教育学博士 | 出席 |
| 富奥眞二 委員 | 社会福祉法人尼崎市社会福祉協議会 事務局長 | 欠席 |
| 河原至誓 委員 | 社会福祉法人明照会 法人本部長 理事長 | 出席 |
| 国沢典子 委員 | 尼崎市立北難波保育所 所長 | 出席 |
| 松本宜泰 委員 | 学校法人松本学園 みのり幼稚園 理事長 | 欠席 |
| 濱田洋行 委員 | 社会福祉法人 協同の苑 特別養護老人ホーム ケイメゾンときめき施設長 | 出席 |
| 細川明子 委員 | 教頭 | 出席 |
| 藤田千波 委員 | 教務部長 | 出席 |
| 山本晴彦 委員 | 保育科学科長 | 出席 |
| 尾崎朋子 委員 | 介護福祉科学科長 | 出席 |
| 三島美砂 委員 | 保育科教員 | 出席 |
| 和泉喜久男 | 関西保育福祉専門学校 校長 | 出席 |

4 委員会次第

- (1) 校長挨拶
- (2) 報告 第 1 回教育課程編成委員会の議事録を本校ホームページに掲載
- (3) 協議

事項 1 保育現場、介護福祉現場のニーズを踏まえた教育内容について

■ 学校説明

1) 平成 29 年 3 月卒業生の就業状況調査説明

71%が良くやっているという評価であったが、改善が必要という評価が 10%であった。その内容の中で、職に対する意識の低さ、社会人としてのマナー、一般常識、責任感などが挙げられている。

2) 平成 28 年度生 2 年間の教育目標到達自己評価点検（ベンチマーク）の結果説明

<介護福祉科>

コミュニケーションに関する4項目についてはレベル3.0が19名で過半数を超えている。協働する力に関する3項目で2項目が過半数を超えていた。医療ケアの理解について17名がレベル3まで到達していると評価していた。

□ 委員の意見

- 専門性を高めてもらいたい。また、社会問題を解決、貢献するための人材を育ててもらいたい。
- 現場では業務改善がなかなかできない。問題を自分たちが発見して、解決する力を育てていかなければならない。養成校においても何故ケアが必要なのかを授業の中で伝えていただきたい。
- 若い人には管理職になる意欲をもってもらいたい。管理職になるメリットを授業で伝えていただきたい。
- 専門学校なので知識と技術を身につけるのだが、コミュニケーションに関わる項目は高いのではないか。しかし、実習の場ではコミュニケーションが難しい。がむしゃらさが足りない。
- 管理職になると手当がつかないこともある。上昇志向をもつ人が少なくなっている。管理職手当が高くない、しかし、業務は大変だということがあるのかもしれない。
- 福祉を目指している人は、ガラガラしている人が少ない。人を押しつけてやろうという人は福祉の世界に行きにくい。
- 世の中に競争がなくなってきている。
- あこがれる、モデルになる管理職がいないといけない。
- ともあれ、処遇改善が望まれる。それが学生のモチベーションにもつながってくると思われる。

<保 育 科>

「表現力」が昨年度より上がった。「疾病」、「事故」などの項目が昨年度同様低かった。今後も更なる努力が必要である。

□ 委員の意見

- 実習を見ていると積極性に欠ける、質問が出ない、これが一番気になる。挨拶もきちんとできない学生がいる。実習記録については丁寧に返却して欲しいと思っているが、文章表現に課題を感じる。
- 実習は期間が短いので悩んでいる間に期間が過ぎてしまう。
- 新採用の職員にも感じるが、全体、集団がつかめない。視野が広がらない。
- 指針が変更されるので、保育所側も研修を多く取り入れている。力を入れていることは、子どもを理解すること、子どもを観察するということである。そういったことを授業にも取り入れていってほしい。
- 保育所の現場で管理職になりたがらないというのは、保護者対応が大変だからだと思える。多様な子どもや保護者に管理職が振り回されている現実はある。
- 若い保育士は遊びを知らない人が多い。集団というか、群れて遊んだ経験がないからではないか。そういったことも課題である。
- 文章の表現力が落ちてきているということだが、書くためには読まなければならない。学生には新聞を読んでもらいたい。特に保育士は20年後を見据えて子どもを育てる仕事である。だから社

会のことを知っておいてもらいたい。現代の情勢を知っておくためにも新聞を読んでもらいたい。

- 実習記録をひらがなで書くことが多すぎる。パソコン、スマートフォンが多くなったせいだろうか。
- 今後も手書きの実習記録を続けてほしい。学校によってはパソコンで打つということも許可している場合があるが。
- どこまで頑張らせるかということをはっきりしておいた方がよいと思う。かなりしんどいところから出発しているわけで、その人たちを次の世代を育てていく人材にまで引き上げないといけない。目標を絞ることが大事ではないか。養成レベルではここまで、後は現場レベルに任せるなど。挨拶一つでも大変なことである。最低限、ここまでと決めることが大事ではないか。

■ 学校説明

3) 平成 30 年度教育課程の編成に向けて

<介護福祉科>

今年度から国家試験が始まった。そのため、国家試験講座（2年生）を行った。それを踏まえて、30年度から演習（2年生）を実施する。合格して卒業してもらいたいと考えている。

□ 委員の意見

- 試験が始まるので、学校の授業にそういった取り組みを取り入れるのはよいことではないか。
- 国家試験対策を行うことは学校としては是非やってもらいたいことである。

<保育科>

実習の変更を来年度から行う。12 日間の実習が学生に負担になっている。教育実習、保育実習、すべてにおいて 10 日間となる。

平成 31 年度から養成課程の新カリキュラムが始まる。そのため、来年度中に教育課程を決定しなければならない。

□ 委員の意見

- 気になっているのは内容が高度になっていることだ。現状を見ているとついていけない学生がでてくるのではないか。
- 評定が低い学生でもやったらできるという気持ちになってもらいたい。
- 現場では勉強ができる学生が一番かということそうではない。感性が大事である。長所を伸ばす教育をやってもらいたい。
- 実習がお盆の時期に重ならないのはよいことである。
- 公立保育所では、素直な人、誠実な人を求めている。成功経験を積み重ねて、感性豊かな保育者になってもらいたい。

(4) 校長 挨拶

(5) 事務連絡

今日の会議録は、後日ホームページに掲載予定である。今年度の教育課程編成委員会は、終了となる。今後ともよろしく願いたい。